

看護学雑誌 第47巻 総目次

1983年1-12月

(表示は、題名：筆者名、号数、ページ数)

特集

時代の鏡としてのうつ病

- 対談／軽症うつ病の時代：笠原嘉・勝力沢子，1，27.
身体症状を訴えるうつ状態患者への援助——心療内科の看護の実際から：鬼村和子・西之原フクヨ，1，37.
一般内科におけるうつ病患者の看護——燃えつき症候群の外来ケアを通して：山崎美佐子，1，43.
うつ状態にある老人の看護：大山江里子・五島シズ，1，48.
思春期におけるうつ病患者の看護：熊田トヨ・岡崎晴子・松井睦子・清水栄子・高梨敏子・鈴木千恵子，1，54.
一般診療所を訪れるうつ病患者の実態：渡辺淳，1，62.

看護(みまも)る心の原風景を見つめて

- 現場の看護者の心に焦点を：金井一薫，2，147.
患者からの形のない贈り物：小笠原常子，2，153.
雑感——仕事をとおした人とかかわりとは：伊藤譜美子，2，158.
私の出会った患者からの学び：飯田裕子，2，164.
死と向かい合う原風景から——真剣な生にかかわり合うこと：池野栄子，2，169.

看護のなかの性

- 臨床における性の諸問題——そのとらえ方とアプローチ：河野友信，3，267.
看護において患者の性をどうとらえるか——私はなぜ患者の性を拒むのか？を追求するなかから：福原隆子，3，276.
看護における性の理解——アメリカ合衆国の性問題の取り組みを中心に：関戸好子，3，283.
患者の性的問題へのかかわり——具体的一場面から：宮尾久子・阪本恵子，3，291.

末期患者の家族とのかかわり

- 座談会／末期患者の家族とどんなにかかわりができるか：山下朱実・内山カツ・菊池真澄・中尾洋子，4，387.
残された家族とのかかわりの中から：佐藤幸子，4，397.
予後不良児の家族へのアプローチ：河内恵美子，4，403.
末期患者の家族に看護婦は何ができるか：鈴木志津枝，4，409.
痛終末期医療の問題点——死亡患者家族へのアンケート

調査より：山本ミサエ・小友安子・渡辺秀子・山田靖子，4，415.

臨床1年目の体験をめぐって

- チームナースの一員となる経過と考察——患者に目が向けられるようになるまで：C.S.，5，507.
新卒ナースC.S.さんとかかわりをとおして——先輩の立場から：Y.Y.，5，511.
現実を歩んで：E.K.，5，517.
しあわせの子ども——小児病棟での1年間の体験から：A.T.，5，521.
臨床1年間を振り返っての決意：K.T.，5，525.
新卒者教育7年間の経験から——現任教育のあり方を考える：平山幸子，5，529.

性的問題を持つ患者のケア

- 病者の性の世界から学ぶもの——精神科における実践の中から：犬尾貞文，6，627.
老人の性的言動とホームケア——訪問看護の中で出会う老人たちの性的言動に思う：島田妙子，6，640.
術後インポテン스에悩む患者へのアプローチ——事例とアンケート調査を通して：村上君子・上田さち子・小野真澄・中野節子，6，643.
人工妊娠中絶を受ける10代未婚女性の看護——事例を通してケアのあり方を考える：平野恵子・中村和子・松元めぐみ・影山初子，6，648.
恍惚の性——事例を通して老人の性問題と社会とのつながりを考える：大工原秀子，6，653.

ゆがむ母子関係と病む子供

- 病む子どもたちの‘否’：梶山祥子，7，747.
母原病に悩む子どもたちの現状と看護接近：藤原幸江，7，752.
吐血を繰り返すことで心の苦しみを表現した患児を看護して：亀井クニ子・中村ちよの・斉藤恵・堀源治・米山和子，7，759.
母への甘えを嘔吐で表現した児への援助：中村仁志・本間こずえ・秋元幸雄，7，766.
子供の発達を阻害する母子関係のひずみ：塩崎扶美子，7，772.
否行に走ったA君との1年6か月のかかわりから：長島衛，7，777.

看護度を見直す

“患者タイプ分けシステム”から見た看護度：野並集子，8, 867.

新卒ナースの受け入れ態勢と看護度——スタッフの適正な配置を再考する：貝山桂子，8, 876.

看護度調査と看護度設定の推移からこれからの看護を考える：松澤孝子，8, 885.

患者状況把握に残された課題：江副信子，8, 891.

訪問看護——現在の実践レベルは？

座談会／訪問看護の現場ではいま……：紅林みつ子・東条妙子・高橋克子，9, 987.

訪問看護の実践レベル——現状とこれからの課題：原礼子，9, 999.

在宅看護の継続に必要な家族の条件——訪問看護が中止となった事例の検討を通して：川澄雅子，9, 1005.

〈私たちの実践レポート〉私たちの訪問看護の実践——病棟・外来の実践から：本川栄子・田辺富美子・山田昌江・皆川きよみ・青木紀子，9, 1010.

〈私たちの実践レポート〉水島を駆け回って5年——寝たきり老人への訪問看護活動から：塩田有規子・佐藤美千子・松下鈴子，9, 1014.

〈私たちの実践レポート〉精神科における外来訪問活動：佐藤まさ・小田まつえ，9, 1019.

〈私たちの実践レポート〉医療・福祉の一体となったセンターを背景とした訪問看護：長谷川まり子・荒井節子・児玉直子，9, 1023.

〈私たちの実践レポート〉寝たきり老人への訪問看護活動と看護婦の役割：工藤トモ子・今野あいみ・倉田和子，9, 1029.

訪問看護〔2〕——地域ケアを目指して

インタビュー／いま訪問看護婦に問われるケアの質と援助姿勢とは？ 聞き手・本誌：島田妙子，10, 1107.

〈私たちの実践レポート〉患者・家族、地域の人々とともに歩む訪問看護：伊藤早美子・成瀬秀子・秦中広子・古川喜美子・榎本真有美・吉田イツ子，10, 1117.

〈私たちの実践レポート〉末期患者の在宅療養を支える訪問看護——家庭で死を迎えた1事例を通して：吉次クニ子，10, 1122.

〈私たちの実践レポート〉病院と地域を結ぶ保健活動の担い手として：工藤和子・興水ふさ・猪瀬京子・青山靖子，10, 1129.

〈私たちの実践レポート〉重症化し、多様化する在宅患者への訪問援助：綿貫有三子，10, 1134.

〈私たちの実践レポート〉診療所における訪問看護：菅原恵子，10, 1140.

老人看護——自立への受けとめ方のズレ

老人への看護的援助とはどんな働きかけか——今、老人看護の問題点はどこにあるか：榛葉由枝・山本桂子，11, 1227.

老人の自立とは一体どのようなことなのか：西村かおる，

11, 1234.

一方的な押しつけ看護の連続ではなかったか：岡部純子，11, 1239.

拒否と沈黙の中にあった老人が心を開く過程——患者の反応の真の意味を考える：藤原順子，11, 1243.

患者と看護婦の認識のズレを埋める試みを通して：小林千恵子，11, 1247.

座談会／老人看護に見る破綻した現代医療：榛葉由枝・奥川幸子・佐藤登美・山本桂子，11, 1252.

ICU 症候群を定義する——アプローチの方策を求めて

インタビュー／ICU 症候群をどう定義するか 聞き手・本誌：黒澤尚，12, 1347.

精神症状を示す ICU 入室患者の年齢・性格との関係——食道癌根治手術後の患者について：佐藤昌平，12, 1353.

ICU の環境が患者に及ぼす影響について：五十嵐良子，12, 1359.

ICU 症候群——私はこう考える：市川幸枝，12, 1366.

ICU 入室患者の訴えの分析を通してアプローチのあり方考える：高田三代子・斉藤千里・沢田峰・楠橋初美，12, 1373.

術後不穏状態を呈する患者への原因追究およびアプローチを試みて：角田栄子・阿部丈子・田中佐智子，12, 1384.

ICU 入室患者家族の不安へのアプローチ：中根真由美・山室美恵子・山本有美子・道前弘子・山本稲子・北島満子，12, 1389.

特別論稿

海外情報／アメリカ合衆国の病院ボランティア活動の精神とその実情：津嶋優子，5, 554.

癌末期患者への病名告知，告げる側の条件について考える：郷地秀夫・浜本肥世，6, 669.

どうして婦長は大変なのか：大塚進，7, 801.

グラフレポート／病院精神医療を超えて——上秦野病院における解放医療に向けての視点とその経過：矢野真二，8, 896.

ベッドサイドの看護

末期患者 N さんへの看護を振り返って——死後2年，それぞれの立場から：斎藤悦子・向井百合子・唐沢里子，2, 177.

RA 専門外来に面接指導の導入を試みて：西条文子・山中美代子・南光達子，3, 298.

長期入院を必要とした乳幼児の円滑な家庭復帰への援助：伊藤静子，3, 306.

急性心筋梗塞後消化管出血を起こした患者への援助：関口利子・長浜正江・田村あけみ・長瀬誉・多胡侑子・吉野久江，3, 311.

両下肢壊死状態の寝たきり老人の状況改善に向けての訪問看護：森川美智子，4, 422.

左足趾切断術を行った閉塞性動脈硬化症患者への看護：

山田順子, 4, 426.
事例を通して患者の「訴え」を考える: 西山和子, 4, 431.
手術に伴う患者の不安とその援助——手術室での体験から: 渡辺孝子, 4, 436.
糖尿病を合併したファンコニー症候群患児の看護: 鎌田玲子・高山光子・黒沼忠由樹・永田紀四郎, 5, 535.
Good Pasture 症候群で腎不全となった患者への看護: 佐藤芳子, 5, 539.
全身麻酔による術後合併症の予防について——無気肺の予防を中心に: 大城百合子・新城八寿・仲嶺須磨子・平田裕子, 5, 544.
重篤な合併症を伴う心筋梗塞患者の看護: 一木ヒロ子・芹田トモ代・大浜京子, 5, 547.
精神科看護のあり方を再考する——ニーズを引き出せない患者とのかかわりから: 吉成茂与子・庄司宣昭, 6, 660.
最後まで生きようと望んだ末期癌患者から学んだこと: 小林千代子, 6, 664.
人間性の回復を求めて患者と共に歩んだ過程——17歳のてんかん病者へのかかわりから: 井上弘子, 7, 782.
幼児様号泣を主訴とする適応障害患者とのかかわりから——相互交流について考える: 渡山恵子, 7, 790.
プロセスレコードを通して患者との触れ合いを考える: 田中富美子・山田徳子・渋谷明美・矢倉紀子, 8, 905.
眼科疾患を持つ老人患者への看護——老人入院患者へのケアを考える: 石川路子・永田雅美・正井美和子・水口三保子・新村ナリ子, 8, 911.
問題行動の理解を考える——暴力行為を繰り返す分裂病患者への看護を振り返って: 竹内裕子・関口久子・古宮文, 9, 1034.
下腿再接着患者の看護: 綱木鶴野, 9, 1038.
看護過程におけるアセスメントを試みて——肝硬変の一事例より: 仲由美子, 9, 1042.
農村地区診療所での高血圧患者管理——セルフケア意識を育てるための個別指導: 高橋順子・坂田静子・宮森正, 10, 1145.
執拗なまでに経口摂取を希望した筋萎縮性側索硬化症患者の看護: 河角純子・野崎信子, 10, 1152.
がん告知に対する患者の希望について——胃内視鏡検査受検者へのアンケート調査から: 谷口美登里・早川美根子・内藤加津子・吉森正喜, 10, 1157.
ADLの自立だけが老人看護の目標なのか: 近藤光子, 11, 1264.
癌末期患者の看護——治療に不満を抱き、癌の告知をした1例: 新野睦子・江島典子・亀田やすみ・田口とも子・松崎みどり, 11, 1268.
ICU 症候群についての一考察——患者側および医療者側の要因を考える: 西村美子・佐伯真佐子・高橋美佐江・満田幸枝・山根静子, 11, 1273.
てんかん病棟の看護を求めて: 長谷川和子・中室むつみ・てんかん病棟スタッフ一同, 11, 1278.
学生の広場
臨死患者の看護を通して学んだこと: 杉本郁子, 1, 68.

ある自己臭患者へのかかわりから精神科看護を考える: 門井洋子・内藤由美, 2, 183. 指導教官から: 藤明朱美, 2, 189.
看護過程を振り返ることの意味: 堀内孝依, 3, 317.
ホスピスの動向についての一考察——癌末期患者に対する医療従事者の意識調査: 大石洋子・樋口恵美, 5, 551.
温湿布の効果的な方法について: 田口裕香里, 6, 674.
周囲に阻害され、けむたがられていた患者に接して: 安田貴恵, 7, 794.
看護学生の喫煙実態調査: 水谷美穂子, 8, 916.
予後不良患者への援助のあり方を考える——急性白血病患者心理の追究: 栗田妙子, 10, 1161.
血圧測定値に関する問題提起——マンシェットの巻き方による測定値の違い: 浅井久身江・宮内みゆき・三好里香, 11, 1284.

研究と報告

調査研究/当院におけるナースコール使用に関する実態調査: 国立療養所沖縄病院看護教育委員会, 5, 560.
場的視点による糖尿病教室改善の活動見直し: 臼杵久美子・小笠原妙子・福島道子・深沢栄子・畑山伊佐子・堀川富美子・岩崎敏子・衛藤幹子・松田正己・丸地信弘, 12, 1393.

外来ナースィング・カンファレンス

——ライフプランニングセンター・クリニックにて

外来医療の時代のコミュニケーションの方法——電話による情報のとり方と整理の仕方: 日野原重明・九岡久美子・松島たつ子・松井伸子・今村久子・吉田友子, 1, 82.
癌患者へのアプローチ——癌が疑われている患者や癌患者にどう対処すればよいか: 日野原重明・小林久美子・松島たつ子・石清水由紀子・高木千晴・塚原映子・井上仁志, 2, 201.

思春期の臨床: 小倉清

治療のあり方[2], 1, 89.
[症例]不登校・暴力を働き家出した高校生, 2, 209.
[症例]思春期やせ症の女子中学生, 3, 329.
[症例]重篤な症状を示した女子中学生, 4, 449.

口腔疾患(歯科) Q&A

口腔領域における悪性腫瘍: 高井克憲・松原康子, 1, 97.
最近の補綴: 太田功・松井恭子, 2, 217.
口腔粘膜に症状を現す全身疾患: 河合幹・水元由美子, 3, 337.

アルコールの臨床: 石井裕生

酒についての2,3の覚え書き, 1, 93.
我が国における飲酒の実態, 2, 213.
酔いの科学[1]——アルコールの体内における代謝, 3, 333.

酔いの科学[2]——ほろ酔い・悪酔い・二日酔い, 4, 453.
栄養学的にみたアルコールの意義, 5, 573.
アルコールによって起こる肝臓病[1], 6, 693.
アルコールによって起こる肝臓病[2], 7, 813.
アルコールによって起こる膵臓病, 8, 933.
アルコールによって起こる心臓病・高血圧, 9, 1053.
アルコールによって起こる胃病変, 10, 1173.
アルコールと発癌の関係, 11, 1293.
酒との付き合いを上手にするために——アルコール養生訓, 12, 1413.

バリエーション方式による患者理解：永田勝太郎

バリエーション方式による全人的理解とは, 1, 101.
動機づけの必要性, 2, 221.
‘生きがい’と医学の関係, 3, 341.
患者に関する情報を表(PEG)にする, 4, 461.
狭心痛のかけには, 5, 581.
水面下の治療——胸心痛のコントロール, 6, 701.
バイオエシックス, 7, 821.
医療者—患者関係の失敗例, 8, 941.
習慣病と心因反応, 9, 1061.
SLEのFさんの痛み, 10, 1181.
Rさんの円形脱毛症——ケアの可能性を広げるには, 11, 1301.
バリエーション方式——その豊かな展開, 12, 1421.

糖尿病 Q&A

糖尿病の正しい理解——看護の立場から：池田義雄・緒方静代, 4, 457.
検査値からみた糖尿病の病態生理：池田義雄・緒方静代, 5, 577.
糖尿病のコントロール：池田義雄・千葉幹子, 6, 697.
糖尿病合併症の種類とそのとらえ方：池田義雄・千葉幹子, 7, 817.
糖尿病患者の手術と看護：池田義雄・下田優子, 8, 937.
眼・歯・足の点検と看護：池田義雄・下田優子, 9, 1057.
食事療法：池田義雄・森三枝子, 10, 1177.
運動療法：池田義雄・森三枝子, 11, 1297.
経口薬治療：池田義雄・森三枝子, 12, 1417.

行動医学：篠田知雄

これからの医療, 5, 569.
行動医学的アプローチ, 6, 689.
患者の行動分析, 7, 809.
患者の問題行動, 8, 929.
患者とのコミュニケーション, 9, 1049.
ターミナル・ケアと行動医学, 10, 1169.
患者との意思の疎通, 11, 1289.
コンプライアンスの問題, 12, 1409.

癌医療最前線——国立がんセンターにおける癌医療

先駆的な治療分野と医療の現況——非リンパ性白血病児の骨髄移植, 1, 4.

インタビュー／集学的治療が治療成績の向上につながっている：米山武志, 1, 6, 最後まで人間らしいケアをしたい：渡辺トミ, 1, 7.
内視鏡による検査・診断, 2, 124.
二重造影法による消化管撮影, 3, 244.
超音波による検査と診断, 4, 364.
コンピュータ断層撮影法による検査と診断, 5, 484.
肝臓癌の手術療法, 6, 604.
癌化学療法の展望, 7, 724.
癌の放射線療法, 8, 844.
癌の免疫療法, 9, 964.
癌の局所温熱療法, 10, 1084.
消化管悪性腫瘍のレーザー治療, 11, 1204.
痛みをもつ末期癌患者の治療, 12, 1324.

LIFE SCIENCE——生命科学のトピックス：本庶佑

未来に備える遺伝子, 1, 10.
遺伝病と遺伝的素因, 3, 250.

CHECK IT UP——日常ケアを見直そう：

看護ケア再検討グループ

食事[3]——闘病意欲につながるような食事介助を, 1, 12.
食事[4]——食の安全性への視点も忘れずに, 2, 130.
排泄[1]——排泄の人間学への視点を, 3, 252.
排泄[2]——排泄のケアの実態と本来のあり方, 4, 372.
排泄[3]——安易に留置カテーテルを入れてしまう傾向はないか?, 5, 492.
排泄[4]——自然排泄を促す技術, 6, 612.
与薬[1]——与薬とは本来だれの仕事か?, 7, 732.
与薬[2]——与薬ミス, 8, 852.
与薬[3]——与薬ケアにおける看護婦の役割, 9, 972.
与薬[4]——与薬ケアへの専門的なかわりを, 10, 1092.
注射[1]——点滴—安易に多用されるなかで忘れられている安全性とケアへの視点, 11, 1212.
注射[2]——注射事故 “安全性”という視点からの事故のとらえ方, 12, 1332.

ナースング・ダイアグノーシス：ナースング滋賀'83

ナースがナースのプロBLEMで悩むとは, 4, 370.
いつも悪いことは医師のせいと言うけれど, 5, 490.
それは、秋のセントルイスから始まった, 6, 610.
ポケットの中だけでなく、頭の中に入ったら, 7, 730.
今回はちょっとひと休みして、読者から寄せられた疑問にQ&Aのスタイルでお答えします, 8, 850.
当たり前のことでも表現してみると思わぬ発見があるものです, 9, 970.
栄養は果たしてナースの得意の分野だったかしら, 10, 1090.
‘排泄’の情報をつかむには、ナースは名探偵ボアロでなくっちゃあ, 11, 1210.
実感!クライアントの生活の場こそ“活動—運動パターン”の活躍の場なのですね, 12, 1330.

インフォメーション — 新しいナースングケアのために

看護過程：木下幸代，1，23。
レーザーによる癌治療：早田義博・小野寿太郎，2，143。
癌の全身温熱療法：加藤信夫，3，263。
思春期医学：松本清一，4，383。
集学的治療：末舛恵一，5，503。
老年病学：長谷川和夫，6，623。
腫瘍専門医：米山武志，7，743。
塩酸モルヒネ坐薬：佐藤尚・水口公信，8，863。
B型肝炎ワクチン：大林明，9，983。
酵素検査法：林長蔵，10，1103。
尊厳死：清水昭美，11，1223。
高プロラクチン血症：青野敏博，12，1343。

NURSES' VIEW

生活習慣を尊重するということ：坂本多恵子，1，25。
痴呆は非可逆性ではない：島田幸子，2，145。
言葉を取り戻したNさんへのかかわりから：石原ノブ子，3，265。
‘安静度’を見つめる：藤原幸江，4，385。
在宅死——旅立ちの装いはだれの手で？：佐藤由紀子，5，505。
問題のある老人保健法：水越紀子，6，625。
日々の臨床実習指導の中で思うこと：雨宮多喜子，7，745。
望まれるホスピスケアの広がり：石森携子，8，865。
老人看護にもっと予防活動を——看護婦は予防活動にどんな形で参加できるか：齊藤亮子，9，985。
開業医院での看護の目指すべきもの：満木公子，10，1105。
患者とともに学ぶということ：東順子，11，1225。
子供と同じレベルに自分を変える：松崎康子，12，1345。

にちよう ひまわり——障害児のデイケアへの試み： 姥山寛代・大堀孝雄

可能性を開くプログラムづくり，1，74。
可能性を拓く子供たち——養護教員の立場から，2，192。
治療的レクリエーションを目指して——社会体育の立場から，3，322。
健診——障害の厳しい現実を見つめて，4，444。
日本で初めて走った障害児専用列車，5，564。
いま，ここに生きる——障害児と共にあることを見つめて，6，684。

ナマステ！ネパール：秋田智枝

ネパールとの出会い，1，106。
カルチャーショックの一夜，2，226。
自然の中で生きる人々——その暮らしと生死観，3，346。
垣間見たネパールの医療事情とナース，4，466。
ネパール最大の祭り“ダサイン”，そしてボカラ，バイラワへの旅，5，586。
医療事情を通してみる貧富の差，6，706。
垣間見たネパール社会の性，7，826。

滞在7か月目の憂うつ，8，946。

ダールとグラフの話——ネパールの家族計画事情，9，1066。

血液センターでの献血と，近代的なパタン病院の見学，10，1186。

ネパールでの国際結婚，11，1306。

帰国，そしてネパール人の妻としての出発，12，1426。

心病む人とともに——精神科病棟での日々：三宅富貴子

精神科看護との出会いのころ，1，78。
エスケープ——自由への脱走？，2，196。
自傷行為——痛ましく激しい訴え，3，326。
電話相談ボランティア，4，442。
大きな鍵の束，5，562。
受け持ち看護制とチームワーク，6，682。
精神科の先生たち——そのさまざまな個性と言動，7，798。
自殺，8，926。
患者さんをひっぱたいた3度の経験，9，1046。
愉快的エピソードのいくつか，10，1166。
転勤，第2の人生への旅立ち，11，1286。
心病む人々に支えられて，12，1406。

外来看護——塩田医院における実践報告

待ち合い室にもそそぐ看護のまなざし：秋田六子・太田弘子，1，113。
笑いを生む個別指導：金光俊子・岩元登喜子，2，229。
‘入院はいやだよ’：阿部れい子・中山英子，3，354。
家庭での看とりを支える：金光俊子・石田マサエ，4，474。
処置室——看護活動のメインの場（1）：池田則子・稲田ひとみ，5，589。
処置室——看護活動のメインの場（2）：阿部れい子・中山英子，6，709。
診察室〔1〕——看護婦のいない診察室なんて：池田則子・稲田ひとみ，7，829。
診察室〔2〕——診察室での車の両輪：石田マサエ・塩田善朗，8，949。
‘寝たきりを防ぐ訪問看護’：金光俊子・阿部れい子，9，1069。
カンファレンス——豊かな知的エネルギー源：稲田ひとみ・大塚洋子，10，1189。
生活保護より実生活への帰還：金光俊子・金岡リミ子，11，1309。
バイオニア精神で地域看護の展開を：池田則子・阿部れい子，12，1429。

グラフ

開業医院だからできるきめの細かい看護をしたい——鹿児島市・猪鹿倉クリニックでの看護，1，16。
患者の安全を守る——山形大学医学部付属病院手術部における看護，2，136。
医と食と農の結合をめざす〈土からの医療〉——熊本県・菊池養生園にみる“食養生”の実践，3，256。

子供の手と足になりたい——国立新潟療養所筋ジス病棟の看護, 4, 376.

真の人間理解を求めて——日本看護協会東京都支部のカウンセリング研修会から, 5, 496.

健康な部分を思い切って生かしてほしい——北祐会神経内科病院の看護, 6, 616.

「老人にも明日がある」を合言葉に——埼玉県・霞ヶ関中央病院のデイホスピタル活動, 7, 736.

「障害者」自身が参加して創り上げる医療——上秦野病院における解放医療への取り組み, 8, 856.

発作はコントロールできる, 胸をはって生きてほしい——北日本のてんかん専門病院・寺泊病院の看護, 9, 976.

小さな診療所における在宅ケアの試み——東京都・むさしの共立診療所のデイホスピタル活動, 10, 1096.

救急医療最前線——報道写真家のとらえた救命看護, 11, 1216.

自分の腕1本が頼り——総合的な判断力が要求される会社診療室の看護, 12, 1336.

プロフィール

〈榎葉由枝〉老人と援助者との間にあるズレを研究——「老人には頑固にならざるを得ない何かがあると思って」, 1, 105.

〈渡辺治夫〉いのちの電話ボランティア——「自分は何も聴けていなかったんだなあと思われました」, 2, 225.

〈竹内玲子〉日赤家庭看護法教師として地域へ出る——「老人を看る老人が看護疲れをしない方法を見つけた」, 3, 345.

〈紅林みつ子〉「ライフケアシステム」訪問看護婦——「老人や末期の人にとって家庭は最高の場だと思いますね」, 4, 465.

〈笹川とし子〉筋ジスの人のボランティアとして6年——「ボランティア活動は楽しくてしかたないですね」, 5, 585.

〈富士京子〉精神科看護を通して自分を見る——「ワカラはずれた個性が純粋にぶつかってくるんです」, 6, 705.

〈田口弥生〉チェンバロの音で自分を表現する——「チェンバロは私の『ものを言いたい心』を表すのに必要な世界です」, 7, 825.

〈細野容子〉自主学習会「岡村ゼミで1年間学ぶ」——「自分が生きる基盤として過去を見る見方が学べました」, 8, 945.

〈石井清美〉インドシナ難民の看護ボランティア——「自分の人生を倍生きてくれたような感じがしました」, 9, 1065.

〈広瀬信子〉看護教師から大学1年生へ——「自由な強制されない勉強がこれほど楽しいとは」, 10, 1185.

〈斉藤公子〉小児透析の継続看護に取り組む——「母と子を見ると『生き抜いてきたんだなあ』と感心します」, 11, 1305.

〈三島弘子〉島の診療所でへき地医療に取り組む——「私

たちの看護は家族も含めた病人の生活看護なんです」, 12, 1425.

フレッシュ婦長

宮井千恵さん——高知医科大学付属病院2西病棟, 1, 1.
石原ノブ子さん——群馬大学医学部付属病院脳神経外科病棟, 2, 121.

原田ゆう子さん——鹿児島大学医学部付属病院内科病棟, 3, 241.

平井妙子さん——佐賀県・いぬお病院, 4, 361.

古賀三枝子さん——国立療養所長崎病院結核病棟, 5, 481.

高橋幸子さん——国立新潟療養所重心病棟, 6, 601.

木村和子さん——北祐会神経内科病院, 7, 721.

福島育子さん——京都・堀川病院救急重症病棟, 8, 841.

榎本栄子さん——東京・北病院, 9, 961.

後藤陽子さん——国立国府台病院神経内科病棟, 10, 1081.

萩野谷光江さん——水戸協同病院皮膚・泌尿器科病棟, 11, 1201.

菊池和子さん——岩手県立中央病院内科病棟, 12, 1321.

BOOK REVIEW

シェアラー臨床成人看護学(J. C. Scherer 著, 中西睦子監訳): 富田幾枝, 1, 110.

看護婦物語(江川晴著): 中村元子, 1, 111.

患者への精神医学的アプローチ——こころとからだの看護をめざして(清水順三郎・福井進著): 半田志穂子, 1, 112.

救命と看護——急変・悪化事例の看護過程(川島みどり・桑野タイ子編): 西元勝子, 2, 230.

このいとしきぼけ老人たち(浜田晋著): 三浦規, 2, 231.

呼吸療法入門(長野準・天羽敬祐編): 石田康子, 2, 232.

水野肇の糖尿病物語(水野綾子著): 井部俊子, 2, 233.

余白のつぶやき——看護へー看護から(べっしょちえこ著): 近森芙美子, 3, 350.

図解看護のための呼吸と循環の生理(中江純夫著): 角田栄子, 3, 351.

病院心理学——看護をめぐる対人関係(Walter J. Schraml 著, 辰沼利彦訳): 増本靖子, 3, 352.

ジョスリン糖尿病マニュアル(普及版)(Leo P. Krall 編集, 後藤由夫・豊田隆謙監訳): 松浦靖彦, 3, 353.

老人とホームケア(鳥田妙子著): 長谷川まり子, 4, 470.

ぼけ老人をかかえて(呆け老人をかかえる家族の会編, 早川一光監修): 大工原秀子, 4, 470.

老人呆けの理解と援助(三宅貴夫編): 菅原恵子, 4, 472.

聖母病院の友人たち—肝炎患者の学んだこと(藤原作弥著): 藤村淳子, 4, 473.

糖尿病性腎症(杉野信博ほか編集): 玉淵恵, 5, 590.

日本精神科看護史(浦野シマ著): 加藤政子, 5, 591.

盲と目あき社会(藤田真一著): 白柳マツエ, 5, 592.

小児看護マニュアル——トロント小児病院看護計画(U. F. Matthews 著, 常葉恵子・片田範子監訳): 梶山祥子, 6, 710.

男の脳と女の脳(川上正澄著)：飯田加奈恵，6，711。
 ブラゼルトンの親と子のきずな——アタッチメントを育てるとは(T. Berry Brazelton 著，小林登訳)：山本あい子，6，712。
 生と死への問いかけ——癌で死んでゆく人々の中で(布施徳馬著)：轟庸子，7，830。
 実践的看護マニュアル——共通技術編(川島みどり著)：高林澄子，7，831。
 カード式在宅脳卒中のリハビリテーション(上田敏監修，森亨・矢部令子・宮崎祐一著)：岩崎フジ子，7，832。
 システム思考による看護の管理行動(北尾誠英編・看護管理事例研究会著)：岡部純子，8，950。
 共に生きるために——アジアの医療と平和(岩村昇著)：田口弥生，8，951。
 分裂病は治るか(林宗義著)：鈴木敦子，8，952。
 自閉症児への架橋——どう理解しどう導くか(安藤春彦・山崎見資・白橋宏一郎・猪股丈二著)：青木歌子，9，1070。
 わたしの乳房再建(千葉敦子著)：横田喜久恵，9，1071。
 病後の風信(宮城賢著)：松崎澄子，9，1072。
 延命の医学から生命を与えるケアへ(日野原重明著)：渡会丹和子，10，1190。
 目で見える手術室看護の基本——患者を事故から守るために(一柳邦男著)：川島みどり，10，1191。
 結婚愛のすべて(エド&ゲイ・ウィート著，宮原忍監修，柿谷正期訳)：吉田伸子，10，1192。
 患者との非言語的コミュニケーション——人間的ふれあいを求めて 第2版(M. N. Blondis, B. E. Jackson 著，仁木久恵・岩本幸弓訳)：古城幸子，11，1310。
 精神医療のひとつの試み(島成郎著)：蜂谷英彦，11，1311。
 看護集団活動——仲間づくりとリーダーシップ(杉野元子著)：稲垣裕子，11，1312。
 街かどの精神医療——続・病める心の臨床(浜田晋著)：富士京子，12，1430。
 針千本——私のがん闘病記(江夏美好著)：近森芙美子，12，1431。
 出産教育——看護的視点から(J. L. Sasnor 著，水口きせ子訳)：片平ミエ子，12，1432。

NEWS

第13回日本看護学会成人看護分科会(熊本)／第13回日本看護学会小児看護分科会／第13回日本看護学会看護管理分科会，1，114。
 第41回日本公衆衛生学会総会／昭和57年度日看協北海道東北地区看護研究学会／第13回日本看護学会母性看護分科会，1，115。
 第6回死の臨床研究会／第6回全国ホームケア研究会／第1回神奈川県立病院合同看護研究発表会，2，234。
 第2回日本看護科学学会学術集会，2，235。
 第13回日本看護学会看護総合分科会，4，475。
 昭和57年度日本看護協会近畿地区看護研究学会，5，593。
 第10回日本集中治療医学会総会，6，714。

昭和58年度日本看護協会通常総会，8，953。
 第10回日本脳神経外科看護研究会，9，1073。
 人間と看護を考える会第5回合同研修会，10，1193。
 第5回地域リハビリテーション研究会／第5回難病看護研究会，11，1314。
 第9回医療と教育に関する国際セミナー／第14回日本看護学会地域看護分科会，11，1315。
 第14回日本看護学会成人看護分科会(佐賀)／第14回日本看護学会成人看護分科会(岩手)／昭和58年度日看協北海道・東北地区看護研究学会，12，1437。

SALON

アルコール症のOさんと断酒会のこと：諏訪輝美子，1，116。
 ある同僚：T. A.，1，117。
 祖母を老人専門病院に入れたが……：松森和子，2，236。
 植物様状態患者の退院時の問題と家族指導のあり方について：水越紀子，2，237。
 ‘回復意欲’という言葉：井山寿美子，2，238。
 看護行為と看護行動：川村亮機，3，356。
 ‘特集／婦長はいま……’に思うこと—1：K. M.，3，357。
 ‘特集／婦長はいま……’に思うこと—2：井山寿美子，3，357。
 化粧をした老女の心：山内範子，3，358。
 様々な死にかかわって：斉田ちさ江，3，359。
 癌患者の妻を支える：阿部恵子，4，476。
 人の痛みの分かる看護婦を期待して：大屋美穂子，4，477。
 中国の医療福祉事情：南波春樹，5，594。
 婦長とのある苦い出会い：早田英子，6，716。
 ナースコールでの応対：野村光子，6，717。
 看護：にしむらももこ，6，718。
 ‘特集／婦長はいま……’についてのK. M. さんへ-1：与座和子，6，719。
 ‘特集／婦長はいま……’についてのK. M. さんへ-2：高木ユミ，6，719。
 家族が自分の気持ちを吐き出せるように：森山淳子，7，836。
 仕事を辞めたいというMさんへ：中村保子，7，837。
 在宅で看取る：高木ユミ，7，838。
 胸が熱くなったある朝の風景：高橋和子，7，839。
 私は感性が失われてきたのか：佐藤佳子，8，954。
 新米教員の独り言：酒井敏子，8，954。
 新人教育：笠村信子，8，955。
 “ベトナム帰還兵における外傷性ストレス後疾患”を読んで：八谷量子，8，956。
 深みの足りないカンファレンス記録——“外来ナースング・カンファレンス”を読んで：小林明子，9，1074。
 特集“臨床1年目の体験をめぐって”を読んで：作間久美，9，1075。
 しげさんが死んだ：緒方静子，9，1076。
 家族の援助したいという望みに沿う援助：田口弥生，9，1076。
 パート勤務に復帰して：尾山恵子，9，1077。

恍惚の叔母の死：荒川みつ子，9，1078.

より良い看護婦の巣立ち方に願うこと：原田八重子，10，1196.

暗き時代の看護婦たち：千島染太郎，10，1197.

人間の持つ限りない生命力を知ってほしい：大屋美穂子，10，1198.

看護士にも保健士の道を早く：鈴木保，11，1316.

心を開こうとしない末期患者を受け持った学生が得たもの：古賀八千代，11，1316.

大人用おむつにもっと関心を：山本紀代子，12，1438.

REPORT

第1回訪問看護婦教育セミナーの報告：佐藤智，1，88.
アメリカ合衆国の勤務体制と人事の運営：小林明子，8，924.

TOPIC

京都のバージニア・ヘンダーソン——ミス・V.ヘンダーソン特別学術講演会から，2，132.

淀川キリスト教病院のホスピス募金1億7000万円を突破，11，1313.

プライマリ・ナースはどのようにして生まれてきたか——“第9回医療と教育に関する国際セミナー”の話題から，12，1434.

GUIDE

米国で看護を学ぶ人のために——CGFNS受験の手引き

：小林明子，2，198.

アイディア

ペースメーカー植え込み術後の固定帯：遠見よしえ，3，297.

褥創予防のためのそば殻ベッドの考案：東北中央病院1病棟，6，715.

下肢鋼線牽引患者のための保温用足袋：岡野美代子・浦田正子，7，834.

老人用散剤のスティック包装：木村徳三，10，1194.

老人たちのいる風景：老人看護を考える会

Hさんとねこたち，1，118.

土と野菜と老人たち，2，162.

老人の問題を同じ重さで考える，3，315.

3人合わせて250歳，4，429.

生活の臭い，5，593.

兄弟，6，680.

骨折と老人，7，796.

格子なき牢獄，8，958.

戦争の爪あと，9，1017.

拘束ということ，10，1198.

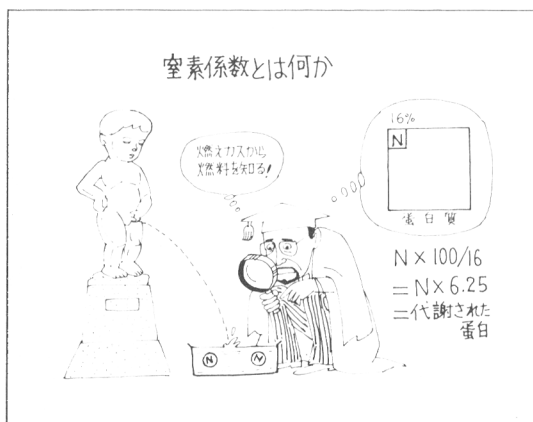
人生ドラマ，11，1317.

ふるさと，12，1439.

輸液を学ぶ人のために 改訂第2版

和田孝雄 慶応義塾大学医学部内科講師

近藤和子 慶応義塾大学病院婦長



蛋白質は平均16%の窒素(N)を含む。そこで体外に排泄された窒素の量を100/16(6.25)倍すれば代謝された蛋白の量が推定できる。

医師やナースが毎日のように関わる「輸液」を平易に解明。輸液剤の内容や輸液のスピードがどのように決められているのかを、その基準となる水・電解質の知識とともに説き明かした対話形式のユニークな実用書。今回の改訂では、最近特に日常的に行われるようになってきた高カロリー輸液を追加し、より現場の疑問に応えるものとなった。

●主要内容

①輸液とは何か②浸透圧の話③ナトリウムの必要量について④基礎輸液の概念⑤維持輸液⑥輸液の指標としての検査データ⑦低ナトリウム血症の考えかた⑧高ナトリウム血症の考えかた⑨脱水症⑩輸液剤の種類⑪輸液のコツとは何か⑫輸液と栄養⑬輸液の速度⑭尿量のみか⑮カリウム⑯ある医師の思考過程より⑰栄養輸液は難しい⑱高カロリー輸液の基礎知識⑲高カロリー輸液用基本液の応用⑳その他の知識

●A5 頁248 色図62 1983 ¥2,000 千300



医学書院

本社 ①①③ ⑨① 東京・文京・本郷5-24-3
洋書部 ①①③ 東京・文京・本郷1-28-36 鳳明ビル

☎東京(03)811-1101(代) 振替東京7-96693
☎東京(03)814-5931-5 振替東京1-53233